当社関連資料

電材流通 新聞
平成26年7月3日17面掲載

# 2014DXアンテナ新商品発表会

## 名古屋会場で有終の美
## 8会場で約4600人を動員

DXアンテナは6月24日、名古屋市千種区の名古屋市中小企業振興会館（吹上ホール）で2014DX アンテナ新商品発表会・講習会を、目標通りの来場者440人を集め開催した。今回の名古屋会場で春季の同展示会はすべて盛況のうちに終了した。3月4日の福岡会場から始まり、名古屋会場までの8会場で約4600人の来場者を集めた。

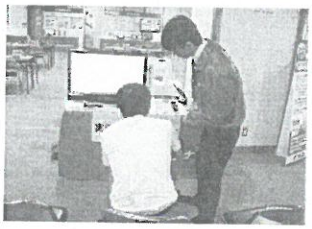
名古屋会場では、これまでの会場と同様、受信関連機器分野の710MHz対応の平面アンテナや共同受信用小型UHFアンテナ、〝お客さまの声でできました〟ブランド製品やミリ波伝送システムなど送信関連機器、CATV関連製品などを幅広く展示し、来場者にアピールした。

会場では、同社つ。

展示会場内のもよう

DXマルチキャストの前で、米山社長㊧と山田恭三中部支店長

レベルチェッカーのコーナー



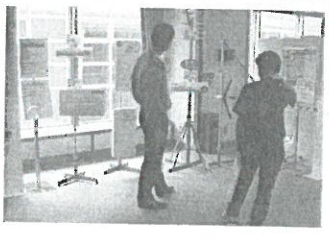
レベルチェッカーの専用ソフトデモコーナーで使い勝手を試す来場者

DXマルチキャストのコーナー

「お客さまの声でできた新商品205機種」のコーナー

平面アンテナのコーナー

ミリ波伝送システムのコーナー



各アンテナのコーナー

がいま特に注力している自治体への防災情報システム「DXマルチキャスト」や新型レベルチェッカーに関心が集まった。

DXマルチキャストは、とりわけケーブルテレビの関係者が興味を示した。さまざまな伝送路で情報の伝送が可能なため、ケーブルテレビのシステムが比較的向いているという。

レベルチェッカーについては、小型化を実現し地デジをはじめ、110度CS、LTEまで測定できるうえレベルと信号品質が同時に測定できるなどこれまでにない多くの特長を持つ。

会場のほぼ中央に設置した同ソフトのデモでは、多くの来場者が関心を持って担当者の説明を熱心に聴いていた。

ほかには、これも顧客の要望で追加した平面アンテナの「ブラック」色も好評、小型の室内アンテナなども来場者のさらに特筆すべきは、顧客の要望でオリジナルの集計ソフトを開発したこと。測定したデータは、マイクロSDカードに記憶し、それをパソコンで集計ソフトに移すと、瞬時のうちにデータが集計され表示される。

会場のほぼ中央に設置した同ソフトのデモでは、多くの来場者が多くなってきているようだ。それだけに会場での滞在時間も増え、こちらの説明を聴く姿もより熱が入っており、質問も多くなっている」と話し、手応えを感じているようだった。

講習会についても、回を重ねるごとに聴講者が増え、毎回ほぼ満員で、時間帯によっては椅子を追加するほどの盛況ぶりをみせた。

講習会のもよう

評価が高かった。

この日も忙しく来場者に対応を行った米山貴社長は、今回の春の展示会を通して「今回来場されたお客さまは、ただ展示商品を見に来たというだけでなく、本気で新しい仕事を見つけようという真剣で意欲的な来場者が多くなってきているようだ。それだけに会場での滞在時間も増え、こちらの説明を聴く姿もより熱が入っており、質問も多くなっている」と話し、手応えを感じているようだった。